

# カルテ資料

[ 喫茶コーナー ]

## ■喫茶コーナーのイメージ及び面積設定

### ■これまでのワークショップで出された意見

#### ○意見・要望

- ・気軽にお茶飲めたり、軽食が食べられるようにしてほしい。
- ・食べ物を持ち込めるようにしてほしい。・高齢者や障がい者が作ることを前提としてほしい。
- ・マイカップの持ち込みなどで利用できるようなフードコートがほしい。
- ・農家レストラン。地元農産物を使ったり、加工品を出したりするレストランであってほしい。
- ・しっかり利益が出るレストランにしてほしい。・誰でも使えるフリースペース
- ・ちょっとした待ち合わせができる(お茶、スターバックス)
- ・環境に配慮したフードコート
- ・地元農産物を使ったり、加工品を出したりする場であってほしい。
- ・民間誘導を行って施設の充実

#### ○発展意見

- ・持ち込んだものを飲食したり、その場で飲み物などを購入できる。高校生などの勉強スペースにもなる。
- ・隣の敷地スペースに「産業雇用創造センター」ができるので、レストランはそちらにして、こちらは喫茶程度でいいのではないかな。

### ■近隣施設状況などを踏まえた見解

- ・複合施設で行う喫茶コーナーについては、福祉団体などの働く場の一環として喫茶提供するという考えが良い。この部分のみでの集客は期待できるものではなく、社会福祉の貢献をということが重要である。
- ・他の施設にも同じようなコーナーがあるものの、大規模なイベント時以外は、全く利用されていないとのこと。
- ・アイーナでは、障害者(授産施設)がコーヒーなどを販売している。

### ■空間としてのゆとりの設定

ワークショップではスターバックスコーヒーのようなゆとりのある客席スタイルをしたいと言う意見が多く聞かれた。  
面積の設定に当たり、スターバックスコーヒーがどのような面積設定となっているか事例分析を行い、右表としてまとめる。



### スターバックスコーヒーの店舗面積と席数

	店舗面積 (㎡)	屋内席	合計面積 / 屋内席 (㎡/席)	テラス席	合計席数	合計面積 / 合計席 (㎡/席)
銀座マロニエ通り店	364.34	120	3.04		120	3.04
香林坊109店	162.00	49	3.31	16	65	2.49
西友楽市・守谷ドライブスルー店	156.00	41	3.80	34	75	2.08
秋田アルス店	146.76	46	3.19		46	3.19
下関大丸店	131.17	47	2.79	4	51	2.57
甲府店	172.84	53	3.26		53	3.26
松山いよつ会館ビル店	140.00	58	2.41	6	64	2.19
鹿児島中央駅店	178.52	57	3.13		57	3.13
足柄サービスエリア(上り線)店	68.30	21	3.25	23	44	1.55
宮崎山形屋店	119.67	22	5.44	14	36	3.32
高知あそ店	163.05	31	5.26	18	49	3.33
神戸北野異人館店	272.10	74	3.68	8	82	3.32
山形エスパル店	148.76	51	2.92		51	2.92
イオンモール盛岡店		64			64	
イオン盛岡南店		42			42	
盛岡菜園店		66			66	
山陽自動車道 宮島SA(下り線)	119.32	21	5.68	32	53	2.25
山陽自動車道 三木SA(上り線)	151.80	20	7.59	22	42	3.61
長崎自動車道 金立SA(下り線)	127.05	20	6.35	20	40	3.18
平均	163.86	47.53	4.07	17.91	57.89	2.84

単位面積は  
2.41~3.80㎡が多数である。

※店舗面積は厨房、トイレ、バックヤード等の面積も含む。

## ■CASE-1 喫茶専用の空間(事例による想定) 村山市総合文化複合施設「甌葉プラザ」

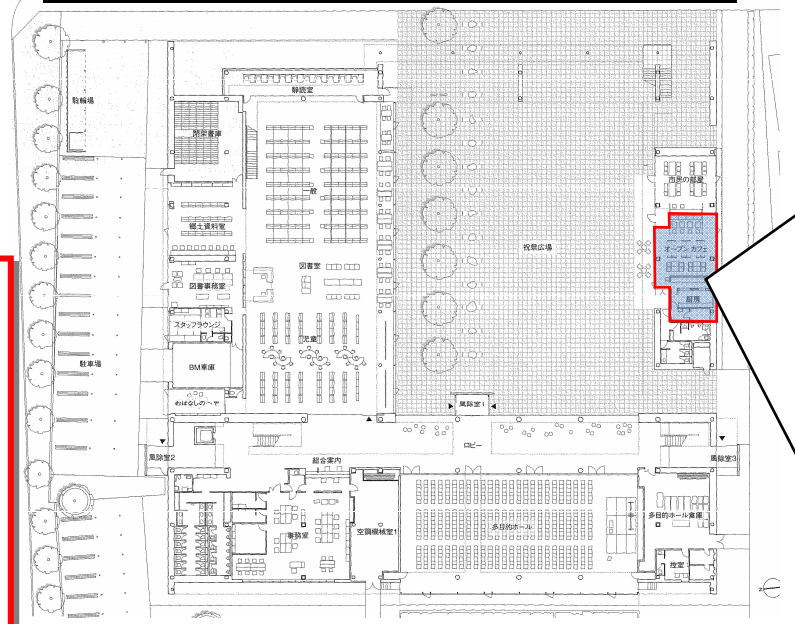
面積	
客席	57.5㎡
給仕スペース	10.4㎡
厨房	13.8㎡
バックヤード	9.0㎡
合計	90.7㎡

席数	
屋内席	28席

単位面積	
	(㎡/席)
客席面積/屋内席	2.05
合計面積/屋内席	3.24

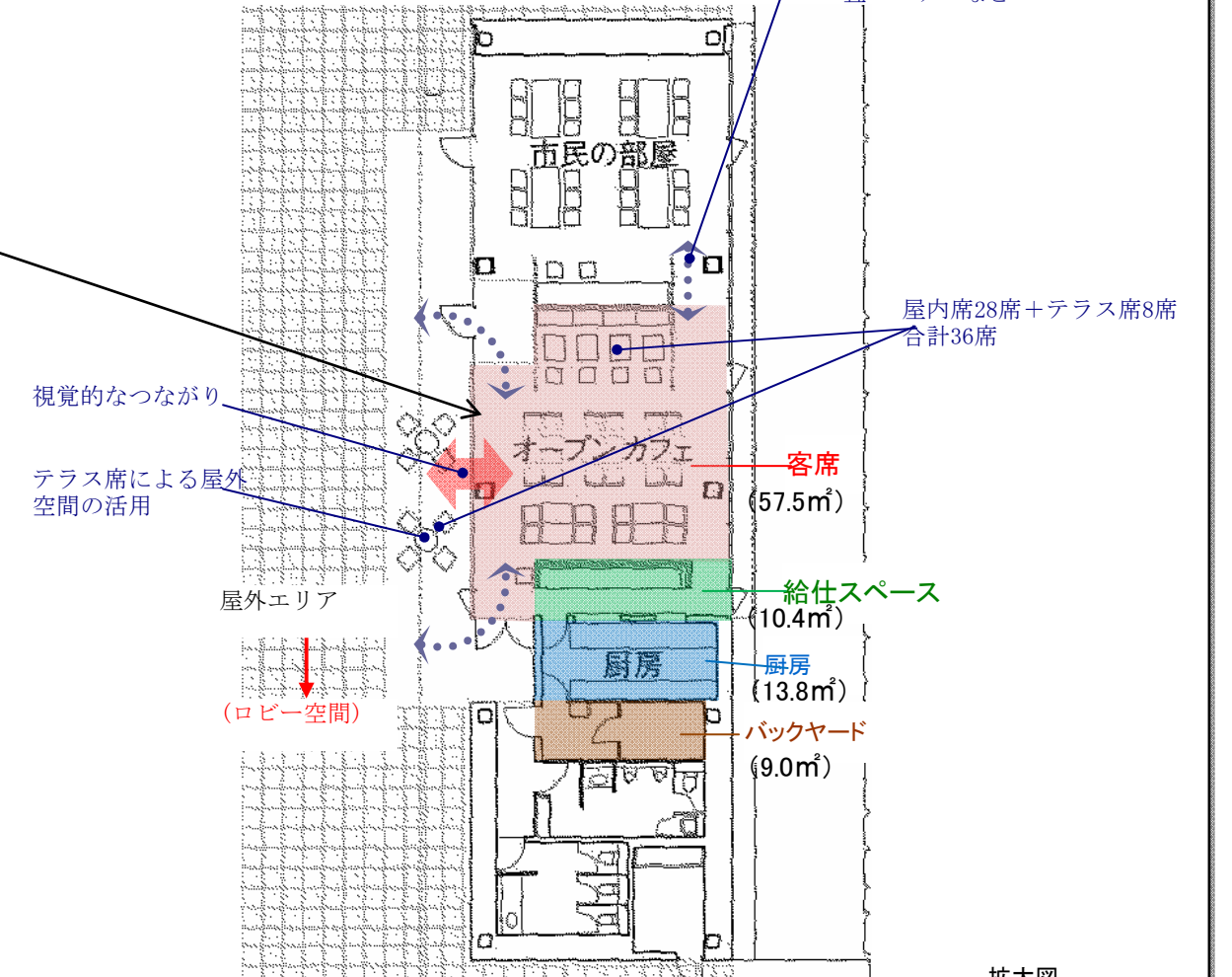
スターバックスコーヒー近似

事例と同等規模程度と考えた場合。



1階平面図

### ■当計画では屋外エリアがロビー空間として計画し、一体的利用のイメージとする。



喫茶のみの場合  
客席60㎡+給仕スペース10㎡+バックヤード10㎡  
⇒ 合計80㎡

レストラン機能を持たせる場合  
客席60㎡+給仕スペース10㎡  
+厨房15㎡+バックヤード10㎡  
⇒ 合計95㎡



■CASE-2 共用空間との一体空間とする場合

■交流スペースと一体になる喫茶コーナー

○福祉団体による喫茶提供

授産施設などの福祉団体などがコーヒーなどを提供する空間として、準備していた商品を提供するための簡単なカウンターや収納を設ける。カウンターには簡単調理などに必要なコンロや流しを設置し、喫茶の提供機能を確保する。

⇒発展形として

交流スペース内で露天商を行うことで、立ち寄りやすい空間とする。更に時間を決めて喫茶コーナーのカウンターを貸し出すなども考えられる。

○交流スペース内の自由な飲食

喫茶コーナーや露天商で購入したものや持ち寄ったものなどを交流スペース内で自由に飲食する。

**【最終案】**

施設規模などをふまえ、交流スペース内に設ける形とする。

■喫茶コーナーの比較

	CASE-1	CASE-2
概要	壁やガラスで間仕切りを設けて喫茶コーナーとし、民間のカフェのような空間とする計画。	間仕切りを設けずに、交流スペース内にカウンターやテーブルを配置する計画。
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専用の空間であるため、静かで落ち着いた雰囲気になりやすい。</li> <li>・調理設備や収納などを充実させやすい。</li> <li>・冷房グレードを共用ロビーと区分できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流スペースを一体利用するため省スペースとなる。</li> <li>・交流スペースの一角であるため、気軽に利用しやすい。</li> <li>・人々のたまりの空間となれば、交流スペースの活性化・にぎわいに繋がる。</li> <li>・冷房グレードをロビーと区分することが難しい。(スポット空調程度)</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専用の空間としてスペースが必要なため、面積が必要。</li> <li>・仕切られているため気軽に使われにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流スペースの雰囲気に影響されるため、静けさや落ち着きを高めることは難しい。</li> </ul>

■CASE-2 一体空間内の喫茶コーナーのイメージ

